



これで登録完了



多摩北支部所属の岡庭建設(株)さんにご協力いただき、CCUS実証実験を行って、いる新築工事現場で、現場稼働の様子を見学させて頂きました。

大手ゼネコンだけでなく、現場でも現場を登録し、カードリーダーを設置してカードをかざして就労履歴を蓄積するシステムが始まっています。今回の実証実験では、現場ごとに割り振られた番号に電話するか、顔認証による方法で入退場を管理するシステムでした。

事業者から「カードリーダーを設置する手間がなくて良い」、技能者から「スマホがあれば簡単」との意見がありました。

すでにCCUSは動き始めています。東京では約2人に1人の技能者が登録を済ませています。事業者、技能者共にCCUSを理解して次世代に繋げましょう。(森本 博文)

森しんいち議会報告

西東京市は、公契約条例制定がなかなか進展しません。新市長に条例制定について考えを伺いましたが、新市長からも前向きな回答は得られませんでした。厳しい財政運営の中で発注する公共事業において過当競争でダンピング受注があれば、手抜き工事や下請け業者へのしわ寄せ、労働者賃金の悪化、安全対策の不徹底による重大災害などが懸念されます。引き続き公契約条例制定に向けて根気よく取り組んでいきたいと思っております。

「簡単」との意見がありました。すでにCCUSは動き始めています。東京では約2人に1人の技能者が登録を済ませています。事業者、技能者共にCCUSを理解して次世代に繋げましょう。(森本 博文)



プロジェクト進行中！ 続報をお待ちください。

木工教室 動画



説明に興味津々

先の大戦での日本人の死者は軍人、軍属230万人、民間人80万人(うちウクライナ2万4千人の遺骨はいまだ海外から帰らない)、アジアの犠牲者は2千万人、全世界では5千万人以上と言われている。私がこの事実を知ったのはいつだったろうか。その当時、「その死にほんの少しの意味があったのか」と考えたことを思い出す。

悪名高き「治安維持法」(1925年)は第二次世界大戦が終わり、大正デモクラシーと言われる自由主義的の中で成立した。以後、15年戦争(1931年〜1945年)に向かう中で反対の声を封じ、国民を戦争へ駆り立てることに力を尽す。日常生活の先にあ

今一度「平和」について考えてみたい。「平和」を辞書で引くと「①おだやかで、やわらいでいること②戦争がなく平和なこと、人間の安全や権利をおびやかすような暴力や不安がない状態」と書かれている。

先の大戦での日本人の死者は軍人、軍属230万人、民間人80万人(うちウクライナ2万4千人の遺骨はいまだ海外から帰らない)、アジアの犠牲者は2千万人、全世界では5千万人以上と言われている。私がこの事実を知ったのはいつだったろうか。その当時、「その死にほんの少しの意味があったのか」と考えたことを思い出す。



戦時中のポスター

<番外編>

平和と日常



絶えず、一かももの水に流れて、私たちは21世紀にどんな世界を子どもたちに残せるだろうか。(伊東 昇)

20世紀は戦争の時代と言われる。戦争は人災である。人々の悲惨、苦難の歴史は慰霊碑、記念館、伝承館に刻まれて声なき声として語り続ける。

日清、日露戦争からアジア太平洋戦争での敗戦、日本復興となつた朝鮮戦争、沖縄基地下のベトナム戦争、自衛隊派遣の湾岸、アフガン戦争。3000万人の鎮魂の中で誕生した不戦を誓う憲法第9条。私たちは思い違いをしていないだろうか。憲法第9条の精神は守ることではなくつくり出すことにある。「平和」はあるのではなく、獲得するものではないのか。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかもこの水にあらず。」私たちは21世紀にどんな世界を子どもたちに残せるだろうか。(伊東 昇)